わかやま未来学副専攻
ガイドブック

あなたは卒業したらどんな家に住み、何をして働き、どのように暮らしているでしょうか。
「わかやま未来学副専攻」では、“地元で活躍できる人”を育成します。

新しい教育プログラム「わかやま未来学副専攻」を、全学部で実施。
履修生募集中。

wakayama
univ.

わかやま未来学副専攻

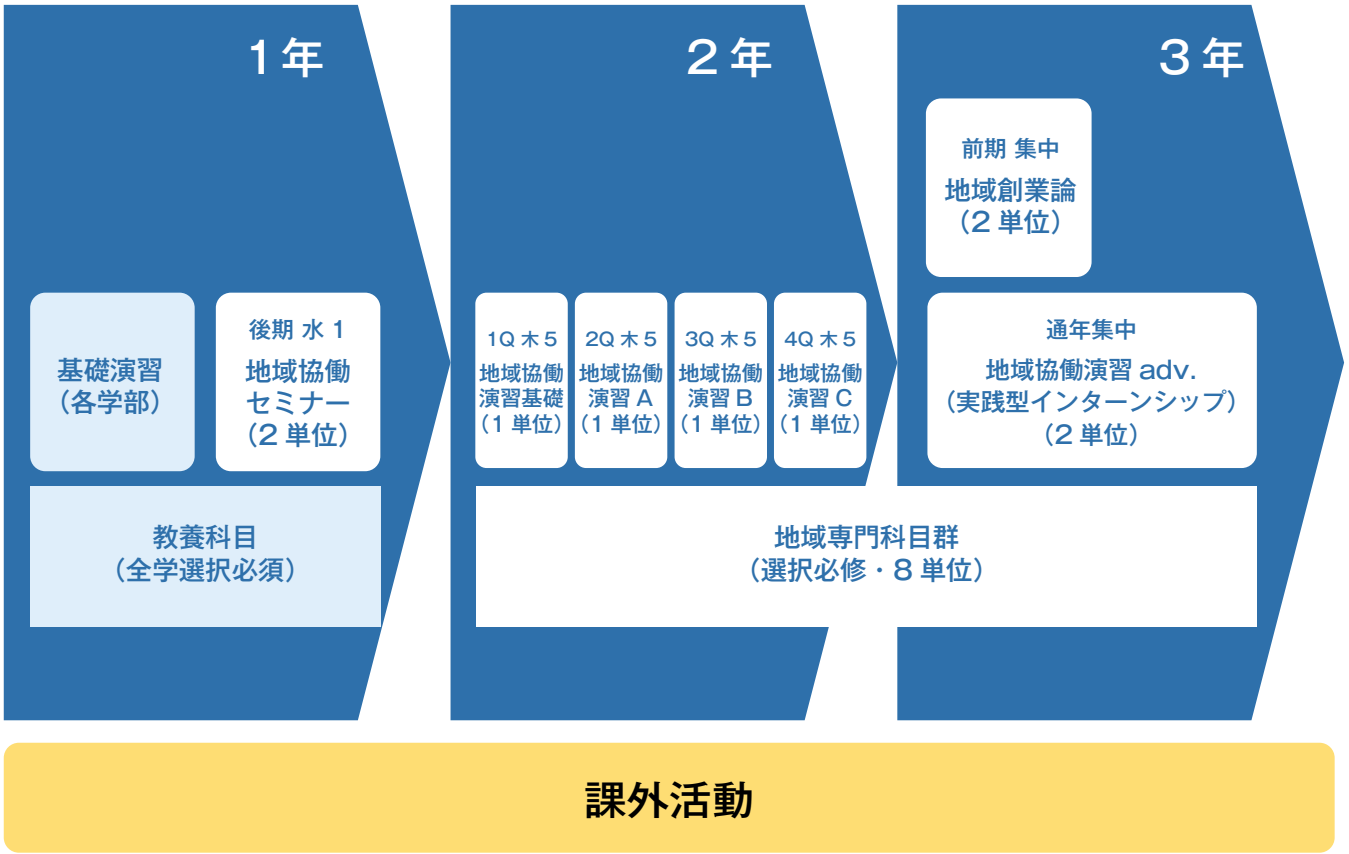
キーワードは
・協働教育
・実践型インターンシップ

「わかやま未来学副専攻」とは、大学、地方公共団体、県内企業、NPOなどとの**協働教育**を展開することを基本とし、地域課題に即した実践的な「教育科目」および「**実践型インターンシップ**」からなる教育プログラムです。

この副専攻に託した願いは、和歌山県の深刻な地域課題に向き合いつつ、秀逸な自然環境と文化資源を生かした取り組みを学生たちが自主的に地域の人たちと協働しながら行っていくことです。

そのための基礎知識を１年次、２年次前期に座学およびグループワークを主体とした講義で学び、２年次、３年次には、地域に出て、実践的な体験を積みながら地域課題の解決に取り組んでいきます。

わかやま未来学副専攻のカリキュラム



必修科目

地域協働セミナー：1年次後期開講（水曜1限）

わかやま未来学副専攻の導入科目です。和歌山県の地方都市・地域社会が抱える多様な課題を理解し、その解決に取り組むための基礎知識を座学形式で学んでいきます。和歌山県の現状・課題、まちづくり、農業、地場産業、創業など、それぞれの課題に取り組んでいるゲストスピーカーから話を聞きます。

地域協働演習基礎：2年次1Q開講科目（木曜5限）

和歌山県の各地域が抱える課題を事例としたグループワークを中心として、議論していきます。地域で課題に取り組んでいるゲストスピーカーから話を聞き、現状と課題、そして今後の可能性を具体的に考えて提案します。グループワークのテーマは「わかやまの地域プロモーション」で、6回を1セットとし、6～7人のグループで議論していきます。

地域協働演習A・B・C：2年次2Q・3Q・4Q開講科目（木曜5限）

和歌山県の各地域が抱える課題を対象としたフィールドワークを中心とした実践型の授業です。3つの分野から1つを選択し、それぞれの地域・分野において、課題発見から解決策を見いだすまでの一連のプロセスを実践的に学ぶ演習科目です。

地域創業論：3年次前期開講科目（集中）

地域において、仕事が創られ、その仕事が成長していくことは、地域にとってかけがえのないものです。地域社会と企（起）業活動の関係の大枠を学んだ後、創業に関係する方（創業者、第二創業者、公や金融機関等の支援者等）に様々な視点から、創業活動の面白さや難しさなどを座学形式で学んでいきます。

地域協働演習adv.：3年次通年開講科目（集中）

和歌山県内の民間企業・自治体・NPO等で行う実践型インターンシップです。これまでの学修の成果を踏まえ、それぞれの現場で地域課題解決のための実践を行います。

2023年度地域専門科目群一覧表

各学部の地域専門科目群から８単位選択です

学部	指定科目名	単位	必修･選択の別
教育	地誌学	2	選択
教育	日本民俗学	2	選択
教育	保全生物学	2	選択
教育	防災教育論	2	選択
教育	和歌山の自然	2	選択
教育	社会地理学	2	選択
教育	自然地理学	2	選択
教育	社会教育計画論A	2	選択
教育	社会教育計画論B	2	選択
教育	生涯学習支援論A	2	選択
教育	生涯学習支援論B	2	選択
経済	交通まちづくり調査研究	2	選択
経済	地域分析実験演習A	1	選択
経済	地域分析実験演習B	1	選択
経済	政策科学（地域）	1	選択
経済	政策科学（公共）74期以降	1	選択
経済	政策科学（公共）73期以前	2	選択
経済	財政政策総論Ⅰ	1	選択
経済	財政政策総論Ⅱ	1	選択
経済	地域産業論A	1	選択
経済	地域産業論B	1	選択
経済	中心市街地活性化論A	1	選択
経済	中心市街地活性化論B	1	選択
経済	Foundations of Finance	2	選択
経済	International Financial MarketsA	1	選択
経済	International Financial MarketsB	1	選択
経済	EU経済論A	1	選択
経済	EU経済論B	1	選択
経済	比較経済体制論A	1	選択
経済	比較経済体制論B	1	選択
経済	International EconomicsA	1	選択
経済	International EconomicsB	1	選択
経済	国際貿易論A	1	選択
経済	国際貿易論B	1	選択
経済	開発経済学A	1	選択
経済	開発経済学B	1	選択
経済	現代中国経済論A（総論）	1	選択
経済	現代中国経済論B（各論）	1	選択
経済	東アジア経済発展論A	1	選択
経済	東アジア経済発展論B	1	選択
経済	現代グローバル経済論A	1	選択
経済	現代グローバル経済論B	1	選択
経済	計量経済学入門A	1	選択
経済	計量経済学入門B	1	選択
経済	経済統計学A	1	選択
経済	国際物流論A	1	選択
経済	国際物流論B	1	選択
経済	現代のアメリカ経済政策A	1	選択
経済	現代のアメリカ経済政策B	1	選択
経済	金融論入門	1	選択
経済	応用金融論	1	選択
経済	日本経済史A	1	選択
経済	日本経済史B	1	選択
経済	Project Management	2	選択
経済	グローバル･マネジメント	2	選択
経済	International Management	2	選択
経済	コーポレート･ガバナンス論	2	選択
経済	日本的経営論A	1	選択
経済	日本的経営論B	1	選択
経済	経営戦略論	2	選択
経済	マーケティング論	2	選択
経済	経営管理論A	1	選択
経済	経営管理論B	1	選択
経済	企業倫理論A	1	選択
経済	企業倫理論B	1	選択
経済	組織行動論A	1	選択
経済	組織行動論B	1	選択
経済	商品企画論	2	選択
経済	管理会計論A	1	選択
経済	管理会計論B	1	選択
経済	管理会計論C	1	選択
経済	管理会計論D	1	選択
経済	財務会計論A	1	選択
経済	財務会計論B	1	選択
経済	財務会計論C	1	選択
経済	財務会計論D	1	選択
経済	ビジネスモデルデザイン	2	選択
経済	経営数学A	1	選択
経済	経営数学B	1	選択
経済	情報システムデザインⅠ	1	選択
経済	情報システムデザインⅡ	1	選択
経済	情報マネジメントⅠ	1	選択
経済	情報マネジメントⅡ	1	選択
経済	IT基礎	1	選択
経済	経営情報システム論	2	選択
経済	会社法総論	1	選択
経済	公益事業論A	1	選択
経済	公益事業論B	1	選択
経済	社会政策（概論）	1	選択
経済	社会政策（雇用と労働）	1	選択
経済	社会政策（社会保障）	1	選択
経済	政策統計解析A	1	選択
経済	政策統計解析B	1	選択
経済	農業政策A（農業政策の展開）	1	選択
経済	農業政策B（品目別農業政策）	1	選択
経済	交通システム論A	1	選択
経済	交通システム論B	1	選択
経済	交通政策A	1	選択
経済	交通政策B	1	選択
経済	経済地誌A	1	選択
経済	経済地誌B	1	選択
経済	地域政策A	1	選択
経済	地域政策B	1	選択
経済	通商政策A	1	選択
経済	通商政策B	1	選択
経済	経済政策総論A	1	選択
経済	経済政策総論B	1	選択
経済	都市政策	2	選択
経済	行政学	2	選択
経済	行政作用法A	1	選択
経済	行政作用法B	1	選択
経済	行政法総論	1	選択
経済	地域自主演習	1-8	選択
シス工	環境デザイン論A	1	選択
シス工	都市デザインA	1	選択
シス工	都市デザインB	1	選択
シス工	生活環境システムA	1	選択
シス工	ランドスケープ･エコロジー	2	選択
シス工	都市環境計画A	1	選択
シス工	都市環境計画B	1	選択
シス工	情報ネットワークA	1	選択
シス工	データマイニング1	1	選択
シス工	データマイニング2	1	選択
シス工	発想法	1	選択
シス工	システム評価法	1	選択
シス工	地域データ活用法	2	選択
観光	観光資源論	2	選択
観光	観光デザイン論	2	選択
観光	観光とブランド	2	選択
観光	地域再生と関連法規	2	選択
観光	観光空間計画論	2	選択
観光	観光と景観保全	2	選択
観光	地域再生特殊講義A	2	選択
観光	観光と都市農村交流	2	選択
観光	観光ガイド論	2	選択
観光	観光戦略論	2	選択
観光	地域再生論	2	選択
観光	観光とコミュニティ	2	選択
観光	観光商品論	2	選択
観光	観光まちづくり論	2	選択
観光	観光応用プロジェクトA	2	選択
観光	観光応用プロジェクトB	2	選択
観光	中山間地域再生論	2	選択

注）受講制限があるため、要シラバス確認。

プロジェクト一覧

地域産業

和歌山の特色ある地場産業（家庭用品産業等）を題材に、企画・開発の基礎を実践的に学び、プロセス・プロダクト両面のイノベーションを考える。また、生産・加工・販売の一体化や新たな地場産業の創出など６次産業化の基礎を学び、和歌山の豊富な農林水産資源を生かす仕組みづくりを考える。

●6次産業化実践（田辺市・紀の川市）

（p5-6）

農林水産業の 6 次産業化を実践するプロジェクトで、田辺市、紀の川市等の農業法人、農業関連企業で実習を行います。農産物や地域資源を活用した商品・サービスの開発ができる人材をめざします。

●ＳＮＳ利用による宇宙教育の全国展開（和歌山市）

（p7-8）

日本全国の高校生を対象とした宇宙甲子園の運営活動に参加し、SNS 等インターネットを使った情報発信・交流により参加校の拡大をめざしながら、社会実装に繋がる実践的なメディア戦略を学びます。

●地産地消IoTによる紀伊半島電網化計画（和歌山県全域）

（p9-10）

中央資本に簒奪されない地産地消型の IoT の普及により、地域の人々の暮らしと古来から伝わる文化財を守ると同時に、地域の産業を活性化します。また「魔の谷」「死の川」を越え、「ダーウィンの海」にこぎ出していく新事業の現場を体験することで、起業を実践的に学ぶことができます。

まちづくり

空き家などの遊休不動産や公共空間、生業や生活文化を活用したまちづくりの基礎を学び、地域コミュニティの持続再生を考える。

●文化財を生かした地域づくりー和歌山城・九度山町ー

（p11-12）

和歌山城公園と九度山町をフィールドとして歴史的環境とも親しみながら、地域での暮らしと生活環境および地域資源を生かした地域づくりについて考えるプロジェクトです。地域の特性を生かした地域づくりについて考え実践できる人材づくりをめざします。

●人口減少社会における地方都市のまちづくり（和歌山市）

（p13-14）

和歌山市をフィールドに、中心市街地などの特定エリアの再生に取り組むプロジェクトです。まちなかを取り巻く背景・課題と潜在的資源を客観的に抽出し、多様な主体と連携・協働し、将来ビジョンを提示、具体的アクションを企画・実践できる人材をめざします。

●人口減少社会における地方都市の駅前再生（阪南市）

（p15-16）

阪南市は、海や山が近接しており、自然が近くにある一方で、都心部への利便性も兼ね備えた都市です。まちの現況から未来を展望することで、地域資源を活用したまちづくりの考えを身につけ、実践できる人材をめざします。

ツーリズム

和歌山の農山漁村の地域資源を生かした「新たな価値創造活動」の基礎を学び、着地型観光産業をはじめとした地域のナリワイづくりを考える。

●美しい星空を生かした観光(みなべ町・紀美野町)

（p17-18）

和歌山県の夜空の魅力を生かした体験型プログラムを軸に、着地型観光ビジネスを企画実践することによって、わかやまの自然環境をいかして地域活性化に取り組める人材を育成することをめざします。

●交通機関を通じた地域づくりと魅力発掘(和歌山県全域)

（p19-20）

交通機関を通じた地域づくりと地域の魅力の発掘をテーマにします。単なる「移動手段」にとどまらない、交通機関の新しい価値の創出、交通機関を通じた地域の魅力を掘り起こすことができる人材をめざします。

6次産業化実践

概要

岸上　光克
食農総合研究教育センター・教授

和歌山県の農業は、経営耕地の約6割が樹園地を中心とした果実の生産を行っている商業的農業特性が強い日本でも数少ない地域です。

この特色を生かし、農業者による生産・加工・販売の一体化や、農業と第2次産業・第3次産業の融合等 により、新たな付加価値を地域内で創出し、雇用と所得を確保するとともに、若者や子どもも農山漁村に定住できる地域社会を構築することを目的とした6次産業化が推進されています。現場での実践型インターンシップ等を通じて商品・サービスの開発およびその過程でPDCAを回しデータの収集や分析、商品の改良などができる人材をめざします。

活動地域

田辺市・紀の川市・海南市
（和歌山市・有田市・湯浅町・有田川町・美浜町）

和歌山県は温州みかん、ウメ、柿の収穫量が全国1位、スモモ、イチジクが全国2位、モモやキウイフルーツもたくさん取れるフルーツ大国なのです。
そのフルーツや温暖な気候を生かした農産物の6次産業化が盛んです。

目標

- ●主体的に地域とかかわることができる
- ●第一次産業（農林水産業）に興味をもつことができる
- ●地域の現状に客観的な視点から向き合い課題を発見できる
- ●地域資源を活用した商品・サービス・流通等の開発ができる

地域の農産物を活用した商品・サービスの開発
（就農・農協・食品加工業者・自治体職員・起業など）

地域協働演習A・B・C

農業関連企業での商品企画を行います。マーケティング手法を駆使し、商品のアイデア出しから、コンセプト立案、商品化までの流れを体験します。

地域協働演習adv.

県内の農業法人や農協、食品会社などで実践型インターンシップに取り組みます。実習先の経営課題に応じて、ビジネスプラン作成やプロジェクトの企画調整、テスト販売や販路の開拓などイノベーションを促進する一員となります。

地域協働演習基礎

「わかやまの地域プロモーション」をテーマにグループワークを行います。
各所がかかえる課題をとらえ、今後への提案をします。

地域協働セミナー

和歌山県農林水産業の現状や6次産業化のプロデュースについての授業を行います。

ＳＮＳ利用による宇宙教育の全国展開

概要

秋山　演亮
クロスカル教育機構　教養･協働教育部門･教授

インターネットを利用した国内外への情報展開は、各地域経済の生命線となりつつあります。目標とするターゲットに的確な情報を届け、これまで参入していなかったレイヤーをも活性化しさらに多くの市場を開発する能力を実践的に学びます。

本演習では日本全国の高校生を対象とした宇宙甲子園の運営活動に参加し、SNS等インターネットを使った情報発信･交流により参加校の拡大を目指しながら、社会実装に繋がる実践的なメディア戦略を学びます。

また同時に、段階的に発展するプロジェクト体験を通じ、今後全産業で求められるアーキテクトの育成手法を学びます。

活　動　地　域

和歌山市、国内全域、海外

Instagram

宇宙甲子園
SPACE KOSHIEN

関西主要３都市からも物理的に離れた和歌山市を拠点とし、距離感を払拭するインターネットを利用した情報の全国展開を実施します。

目標

- ●宇宙教育からアーキテクトの必要性と育成手法を学ぶ
- ●ネットを使った国内外への情報展開を実践する
- ●ネットを使った国内外の交流による市場形成を学ぶ
- ●海外 / 全国を俯瞰しながら各地域との協力方法を学ぶ
- ●教育活動を通じた地域活性化を学ぶ

ネット活用により市場構築できる人材の創出
（地域発ネットベンチャー、NPO、海外人材育成）

地域協働演習adv.

全国的に宇宙教育を展開する企業・団体と協力し、インターンシップに挑戦します。

地域協働演習A・B・C

実際に全国の高校生を対象として宇宙教育活動を行っている「宇宙甲子園」の運営活動に参加し、SNS等インターネットを使った情報発信・交流に参加し、社会実装に繋がる実践的なメディア戦略を学びます。

地域協働演習基礎

「わかやまの地域プロモーション」を通じて、プロジェクトの意義と位置づけを学びます。

地域協働セミナー

これまで和歌山大学が実施してきた取り組みに関して学びます。

地産地消IoTによる紀伊半島電網化計画

概要

秋山　演亮
クロスカル教育機構　教養・協働教育部門・教授

明治維新より爆発的に増加し１億人を超えた我が国の人口は減少を続けており、かつ江戸時代よりも遥かに高齢化が進み、人手だけで日本の国土保全は困難になりつつあります。和歌山県/紀伊半島はその代表的な地域です。そこで中央資本に簒奪されない地産地消型のIoTの普及により、地域の人々の暮らしと古来から伝わる文化財を守ると同時に、地域の産業を活性化します。

また「魔の谷」「死の川」を越え、「ダーウィンの海」にこぎ出していく新事業の現場を体験することで、起業を実践的に学ぶ事ができます。

活動地域

和歌山県内全域・近隣府県

山深く海が迫る紀伊半島はIoTの実践場所として最適な地域の1つです。また近隣府県でも配置・運用を進めます。

目標

- ●地元の抱える問題を理解し、その対策を考える
- ●地域住民 / 企業との協力を学ぶ
- ●IoTや衛星等の先端技術に関する理解を深める
- ●地産地消による先端技術利用を体験する
- ●研究開発から産業化への移行を体験する

IoT等先端技術の地産地消を支える人材の創出
（地域活動ベンチャー、自治体職員、NPOなど）

地域協働演習adv.

IoTシステムの社会実装を進めている企業へのインターンシップを通じて、社会実装上の問題点をより深く体験的に学びます。

地域協働演習A・B・C

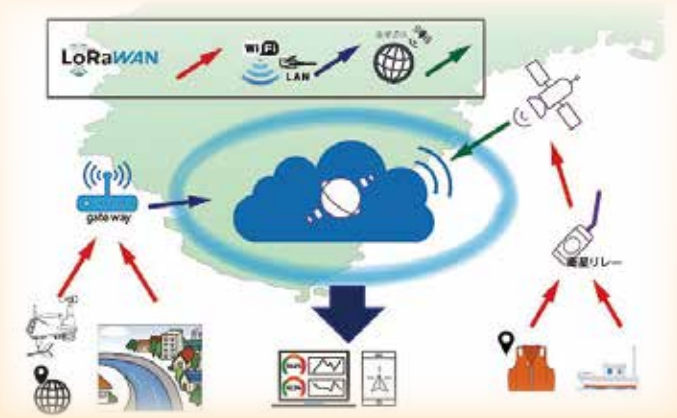
和歌山市加太地区や、西山東地区/御坊市の自主防災組織、和歌山東漁協、醍醐寺、アドベンチャーワールドで実装を進めるIoTシステムに関し、ハードウェア/ソフトウェア、社会実装を実践的に学びます。

地域協働演習基礎

「わかやまの地域プロモーション」を通じて、プロジェクトの意義と位置づけを学びます。

地域協働セミナー

これまで和歌山大学が実施してきたIoTの取り組みに関し、現場で係わった地域行政・立法の関わりに関して学びます。



文化財を生かした地域づくり―和歌山城・九度山町―

概要

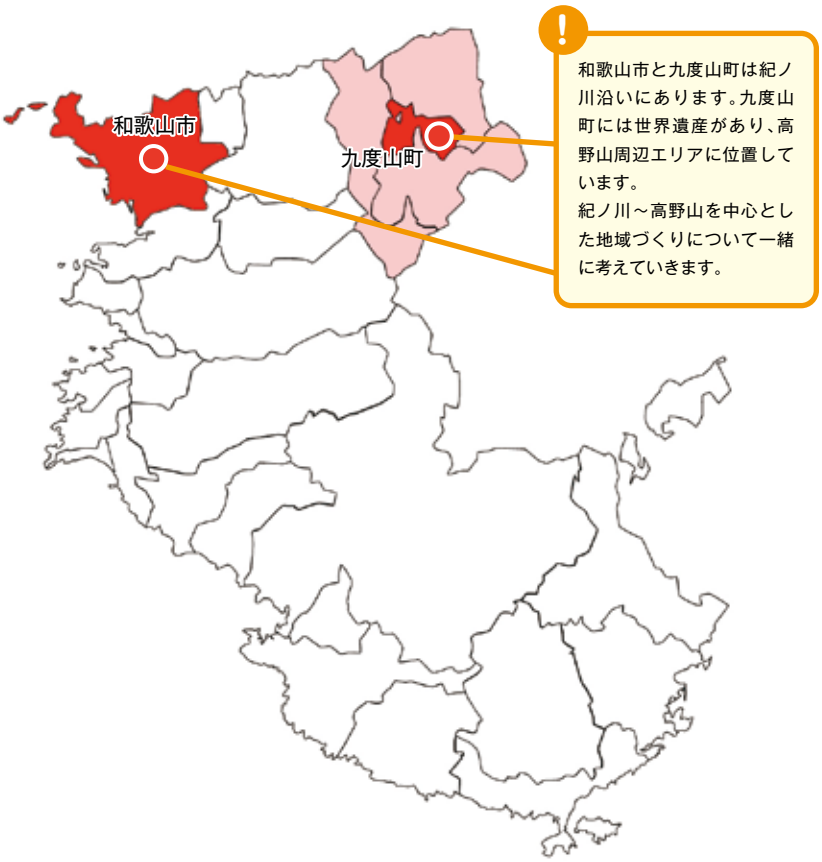
宮川　智子
システム工学部・教授

和歌山市や九度山町では、歴史的環境を生かした地域づくりが行われています。和歌山城公園は、和歌山城をはじめとした文化財である一方、広場や動物園が整備され、都市公園としても市民に親しまれています。九度山町は高野山へと連なる山並みと紀ノ川や丹生川による水資源に恵まれた環境に位置し、歴史的町並みがあります。

このプロジェクトでは、和歌山城公園と九度山町をフィールドとして歴史的環境とも親しみながら、地域での暮らしと生活環境および地域資源を生かした地域づくりについて考える機会となることを目標としています。インターンシップ等を通して、地域の特性を生かした地域づくりについて考え実践できる人材づくりをめざします。

活動地域

和歌山市
九度山町



目標

●地域の特性や課題をみつけ、表現することができる

●地域の特性や課題をみつけ、解決策を提案することができる

地域づくりを主体的に行える人材の創出
（自治体職員・地域おこし協力隊・着地型観光業・起業など）

地域協働演習adv.

文化財や地域資源を生かした地域づくりについて、インターンシップを行います。地域資源に関する調査・記録によるデータ収集、観光ルート作成等を実践します。

地域協働演習A・B・C

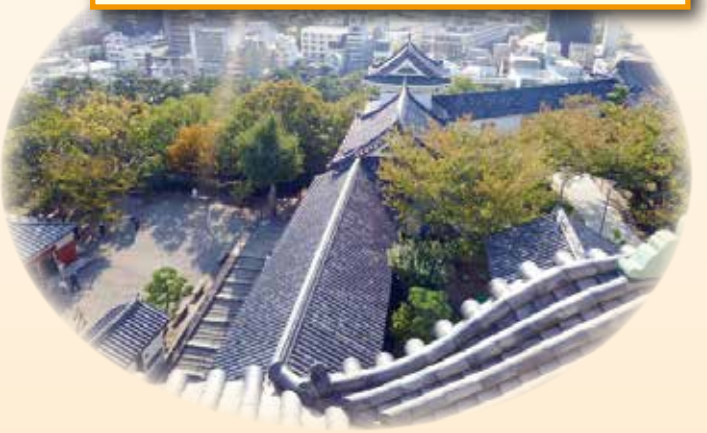
和歌山城公園や九度山町にてフィールドワークを行い、次の２点について検討し、提案を行います。
1）地域資源の発見と歴史的環境を学ぶ
2）観光ルートづくり

地域協働演習基礎

「わかやまの地域プロモーション」をテーマにグループワークを行います。
和歌山の地域が抱える課題をとらえ、テーマに沿った議論を行います。

地域協働セミナー

文化財や地域資源を生かした地域づくりについての授業を行います。
関連イベントとして、和歌山城公園や九度山町にて文化財を見学する機会があります。



人口減少社会における地方都市のまちづくり

概要

永瀬　節治
観光学部・准教授

平野の少ない和歌山県では、もともと沿岸河口部にコンパクトな市街地が形成され、紀伊半島の経済・文化を支えてきました。なかでも紀の川河口部に開けた和歌山市は、紀州徳川家の城下町を礎に県庁所在地として発展し、経済・文化の拠点となってきました。しかし全国の地方都市と同様、モータリゼーションと郊外開発、他地域への人口流出により中心市街地は衰退しています。

本プロジェクトでは、時代のニーズと地方都市の可能性を捉え、地域に潜在する空間・生業・歴史文化等のストックを統合的に活かしながら、魅力と持続力のあるまちづくりに実践的に取り組むことをめざします。

活動地域

和歌山市

35年前には40万人余りだった和歌山市の人口は35万人台まで減少し、特にまちなかでは空洞化が進んでいます。一方で近年は民間による建物のリノベーションや公共空間の活用が推進されています。

目標

- ●地域の課題と潜在的資源を客観的に抽出できる
- ●地域の多様な主体との連携・協働ができる
- ●地域の空間と社会を統合した将来ビジョンを提示できる
- ●資源活用のための具体策を提案できる

地方都市のまちづくりを担う人材の創出
（自治体職員、まちづくり会社、NPOなど）

地域協働演習A・B・C

和歌山市での実践をとおして、具体的な企画・構想をし、地域資源を活用するための具体的な提案を行います。

地域協働演習adv.

和歌山市内でまちづくりに取り組む行政の関連部局や民間組織の協力を受け、インターンシップに取り組みます。
自治体、まちづくり会社、交通事業者等へのインターンシップを予定しています。

地域協働演習基礎

「わかやまの地域プロモーション」をテーマにグループワークを行います。
和歌山の地域が抱える課題をとらえ、テーマに沿った議論を行います。

地域協働セミナー

和歌山市の公共空間の再生や官民連携によるまちなか再生についての授業を行います。
南海和歌山市駅から本町・ぶらくり丁周辺の取り組み等の見学を通じて、中心市街地の「まちづくり」への興味・関心を高めます。

人口減少社会における地方都市の駅前再生

概要

佐久間　康富
システム工学部・准教授

大阪から和歌山への入り口であった阪南市は、従来からの漁村と農村、約50年前に開発された郊外住宅地等からなる地方都市です。自動車社会の進展等に伴って、駅前は空き地、空き店舗が増えています。かつてあったような賑わいを取り戻すことは難しい状況ですが、現在の人々の暮らしにあわせた駅前のあり方に向けた検討が進んでいます。まちの現況から未来を展望することで、地域資源を活用したまちづくりの考えを身につけ、実践できる人材を目指します。

活動地域

阪南市

阪南市は、海や山が近接しており、自然が近くにある一方で、都心部への利便性も兼ね備えた都市です。
人口減少社会に適合した駅前や郊外住宅地のあり方を一緒に考えていきます。

目標

- ●地域の特性や課題を見つけ、表現することができる
- ●地域の多様な主体との連携・協働ができる
- ●地域の特性や課題に応じた、解決策を提案することができる

地方都市のまちづくりを担う人材の創出
（自治体職員、まちづくり会社、NPOなど）

地域協働演習A・B・C

阪南市での実践をとおして、具体的な企画・構想をし、地域資源を活用するための具体的な提案を行います。

地域協働演習adv.

阪南市内でまちづくりに取り組む行政の関連部局や民間組織協力を受け、インターンシップに取り組みます。
自治体、まちづくり会社等へのインターンシップを予定しています。

地域協働演習基礎

「わかやまの地域プロモーション」をテーマにグループワークを行います。
和歌山の地域が抱える課題をとらえ、テーマに沿った議論を行います。

地域協働セミナー

阪南市駅前の公共空間再編に向けた取り組みや市民中心のまちづくりについての授業を行います。
南海電鉄尾崎駅周辺の市街地状況の確認を関係者と合同で行い、まちを見る視点の獲得、「まちづくり」への興味・関心を高めます。

美しい星空を生かした観光

概要

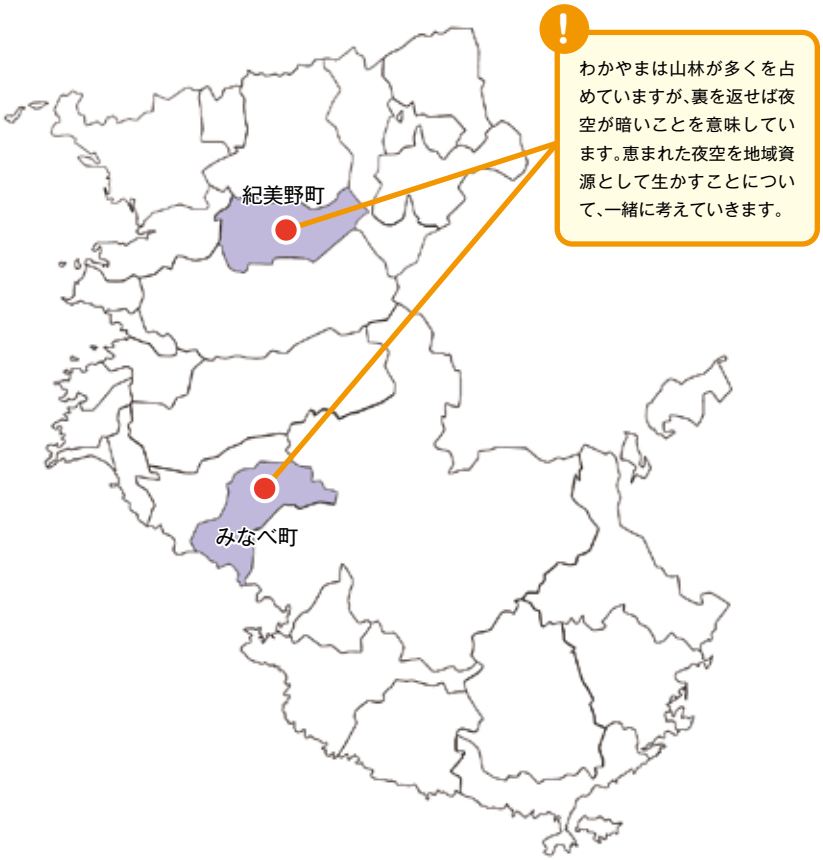
佐藤　祐介
クロスカル教育機構 教養・協働教育部門・講師

都市部の少ない和歌山県では、開発が進んでいませんが、むしろ、多くの都市から失われてしまった、暗い夜空が残されています。そこで、和歌山県の夜空の魅力を生かした体験型プログラムを軸に、着地型観光ビジネスを企画実践することによって、わかやまの自然環境を活用して地域活性化に取り組める人材が求められています。

本プロジェクトでは、星空資源を生かした観光プログラムを立てるとともに、それが独立した着地型観光ビジネスとして機能するシステムを構築し、まちづくり、地域づくりにつながるような、プロジェクトの具現化等に関するノウハウと、構想力・実現力を養うことをめざします。

活動地域

みなべ町・紀美野町



目標

- ●中山間地域の背景・課題と潜在的資源を客観的に抽出できる
- ●星空を資源とし、それに関わる多様な主体との連携・協働ができる
- ●星空資源で地域おこしや生業づくりをおこなう具体的な企画を実践できる

星空資源を生かした新しい地域産業の創出
（着地型観光業、DMO・観光協会、起業など）

地域協働演習A・B・C

わかやまの地域資源である暗い夜空を、どのようにして着地型観光プログラムにするか、企画立案、実行を行います。
これまでに、紀美野町で開かれるスターパーティの企画を担当しました。

地域協働演習adv.

天文施設・天文観光事業者においてインターンシップを行います。
経営課題に対して自分の経験・専門性を活かし、解決策を検討・実行していきます。

地域協働演習基礎

「わかやまの地域プロモーション」をテーマにグループワークを実施します。
和歌山の地域が抱える課題をとらえ、テーマに沿った議論を行います。

地域協働セミナー

紀南地方で実際に星空ガイドをツアーとして行っている事業者からお話を聞く授業を行います。
また、実際に星空観望会の見学を行う計画があります。

交通機関を通じた地域づくりと魅力発掘

概要

西川　一弘
紀伊半島価値共創基幹・准教授

和歌山県に長く住む人に聞けば「和歌山はクルマが無いと移動できない」と言われます。クルマを持つ人は道路がある限り縦横無尽に移動ができ、「豊かな！？」生活ができると思いがちです。日常生活は“移動”無くして成立しませんので、クルマを持たざる人やクルマに乗ることができない人にとっては、“生活の質”を脅かす課題でもあります。

和歌山にはそんな移動を支えるたくさんの「交通機関」があります。特に鉄道では、日本一短い鉄道、猫の駅長、パンダの特急、電車同士の結婚など、話題に事欠きません。和歌山県は“楽しい列車祭り”な県と言えるでしょう。

本プロジェクトでは、交通機関を通じた地域づくりと地域の魅力の発掘をテーマにします。単なる「移動手段」にとどまらない、交通機関の新しい価値の創出、交通機関を通じた地域魅力の掘り起こし、人間の主体形成（自分ゴト化）を実践しながら、考えていきます。

活動地域

JRきのくに線沿線

！ 活動エリアは和歌山県内全域とします。鉄道・バスなどの公共交通は常に乗客の減少の課題を抱えていますが、コロナ禍によりその課題は深刻化しています。

目標

- ●これまでの常識を疑い、ナナメ上思考で物事や事象を構造的に見ることができる
- ●大勢の人の前で地域資源の解説やプレゼンテーションができる
- ●地域のいろんな主体や機関など調整、コーディネート、協働することができる
- ●交通機関の活性化、交通機関を通じた新しい事業の提案・実践ができる

交通機関の価値を最大化できる人材の創出
（運輸事業、観光業、DMO・観光協会など）

地域協働演習A・B・C

公共交通が魅力的になるための「問い」を立てた上で、現場・現実の調査を通じて公共交通が抱える課題を明確化します。
それを踏まえ、対応策の企画検討・立案、沿線資源の掘り起こしを行います。

地域協働演習adv.

和歌山県内の鉄道事業者やバス事業者などの協力を得て、実践型インターンシップを行います。
交通機関の活性化事業、交通機関を通じた新しい事業を実施（試行）します。

地域協働演習基礎

「わかやまの地域プロモーション」をテーマにグループワークを行います。
和歌山の地域がかかえる課題をとらえ、テーマに沿った議論を行います。

地域協働セミナー

鉄道事業者による沿線の活性化の取り組みや観光振興についての授業を行います。
また、和歌山県の主要課題である「防災」に関連して、鉄道の津波対策も取り上げます。

わかやま未来創造人とは…

- わかやまの未来を考える人
- わかやまの未来を創造する人
- わかやまの未来に向け地域を発信する人

各地から集まった学生が企業・自治体・団体の皆さんと出会い、地域の課題をわかち合い「はたらく」ことで、まちと人を元気にする。そんな人財です。

認定制度とは

地域志向プログラムを修了した学生の中から、所定の発表・審査を経て「**わかやまの未来を自ら積極的に創っていける人財**」「**わかやまの未来を語り地域を牽引していく人財**」にふさわしいと「紀の国大学」が認めた者を「わかやま未来創造人」に認定します。
この認定を受けた人は、わかやまを志向する学生です。チームワークやリーダーシップ、プレゼンテーションなどを修めているため、地域の現場で自ら知識を使い活動できる人として期待できます。
「わかやま志向の学生を採用したい」「わかやまに関する知識を持った学生に応募してもらいたい」というニーズをお持ちの企業さま、自治体さまへ。「わかやま未来創造人」は、企業等と学生の地域志向をマッチさせる、学習のシステムです。**本認定制度を知っていただき、採用活動にご活用ください。**

認定までの流れ

大阪市立大学	CR (Community Regeneration) 副専攻
大阪府立大学	CR (Community Regeneration) 副専攻
摂南大学	ソーシャルイノベーション副専攻
和歌山工業高等専門学校	わかやま学プログラム
和歌山信愛女子短期大学	きょう育の和プログラム
和歌山大学	わかやま未来学副専攻

わかやまに関する授業・活動に参加

紀の国大学学生によるエントリー

わかやま未来創造人を育てる授業

地域が実際に抱える課題を題材にグループワークとフィールドワークを中心とした授業を行っており、リアルで臨場感があります。現場で活躍する実務家を招いての講義、教室でのグループワーク演習、地域の現場で行う実習などを通じて、学生はわかやまの課題を理解する知識を着実に増やし、他者と協働する際のマインドや、課題解決のスキルを身につけることができます。こうした学びの機会は、学生の在籍校にとどまらず、紀の国大学参加校の合同授業などもあり、大学・短大・高専間の交流も行っています。

指導教員から

和歌山大学
教養・協働教育部門
講師　佐藤祐介

紀の国大学の学生は、起業家など地域の実務家を招いた講義やグループワーク等の授業の後、各自の課題とする地域に出て行きます。紀の国大学は、わかやまへの知識を深め、志をもっている学生にのみ「わかやま未来創造人」の認定を与えます。彼・彼女たちは必ずや、わかやまに無くてはならない人物となることでしょう。

「わかやま未来創造人」と認定された学生は、わかやまならではの多様な生活に、独自の価値を見いだし、創造的な「未来」へ向けて動いていける人です。彼・彼女らは主体的に地域の現場に出て自ら課題・企画に取り組み、地元住民と一緒になって、学びを作り上げています。地域社会での活躍が期待されます。

和歌山大学
教養・協働教育部門
教授　秋山演亮

私たちが未来創造人のタマゴです

泉 果歩
和歌山大学 観光学部3年生（当時）

和歌山県出身なので、出身地を勉強できる機会ととらえたのが受講のきっかけです。グループワークで企画を考える授業では、社会でも使える基礎的な力が身についたと思います。最初は、周囲に教えてもらうことが多かったですが、学年が進むにつれ、現場に出て自分で考えて実行することが多く、学びとなりました。このプログラムは、一般的な大学の授業に比べて、現場に出られる機会が多いことと、地域資源を見つけて、それを観光や仕事につなげる方法を学べることが特徴だと思います。この授業のおかげで、わかやまの知識が増えるとともに、地元がもっと好きになりました。

新谷 ほのか
和歌山大学 観光学部3年生（当時）

私は広島からの進学で、和歌山県に住むようになりました。和歌山大学に来てから、わかやまをもっと勉強してみたいと思い、副専攻プログラムを受講しています。副専攻では、普段の生活では足を伸ばさない場所に行き、実践的な勉強ができます。このことは学生側のメリットであり、授業の大きな特長だと思いました。地域の事を知るほどに、もっと深く知りたくなりますし、自分が育った地元の事も知りたくなりました。この授業を通じて私は、地域に対する思い入れが強くなったような気がします。今後は農業に関連した仕事をしたいと考えています。

発表会で成果発表

紀の国大学教育プログラム開発委員会にて認定

わかやま未来創造人認定証発行

県内企業・自治体の就職活動のアピールに活用

卒業生が和歌山で活躍、定着

wakayama
univ.

和歌山大学
COC+ 推進室 https://cocplus.wakayama-u.ac.jp/
cocjimu@ml.wakayama-u.ac.jp